



# NPO法人ジャパンデンタルミッション

## 海外活動報告書

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2010年11月19日～11月24日

参加メンバー

(上段左から) 佐々木千尋(Vo) 垣内万智子(DH) 柿野聡子(Dr) 伊藤晴夫(Vo) 森千代美 (DH)

(下段左から) 栗原直士(Dr) 沢田宗久(Dr) 大西富子(DH) 合田健志(Dr) 上崎秀美(Dr)



### 活動内容

#### 11月19日(金曜日)

19:00頃に関空から出発組7名が先にカオハガン島に到着。成田発からのヴァージニアを含む4名を待ちミーティング・・・予定であったが、ボランティアの伊藤氏が船から着岸時に左ヒザを捻挫してしまい緊急事態に、歩くこともままならず、島のタクシー(リヤカー)にて崎山ハウスに到着。応急処置後ミーティング。

今回は2月に持ち帰った義歯を作成し(DT河内氏が日本での診療の合間にすべての義歯を作成してくださった)、セットする予定と次回(来年2月)義歯セット予定の噛み合わせを確認する作業があ

り、Dr 5名という恵まれたメンバー構成ではあるが、多忙となることが予想される。しかも日曜日に教会で大規模なミサがあり、今回の診療場所がバランガイホール（島の公民館のような建物）になると知らされていた為、場所の確認と電源、機械の配置、診療の流れを確認のために全員でバランガイホール内を見学する。このホールは今年完成したばかりの2階建ての美しいホールで、歯科診療のためにこの新しいホールを使わせて頂いたことに、カオハガン村長と崎山氏に感謝いたします。

初日の診療は、沢山の患者さんが待っていることが予想されるため、具体的な診療体制をリーダーのDr 上崎からの指示に従う。



バランガイホール

### 11月20日（土曜日）

8時からの朝食後、9時から診療に入る、ホールの前では沢山の患者さんが待っていた。義歯の装着5名と次回の義歯作成の為の噛み合わせ調整作業10名の患者にDr 3名がフル回転。Dr 沢田は予診担当で、列をなす患者さんの主訴を聞き、診断と振り分け。DH 1名と島の保健師MS.エマは記録と受付を担当。虫歯治療と予防処置、診療補助に4名が次々に来る患者さんをこなしていった。

義歯装着の多くの希望者はカオハガン以外の島の住人が多く、パガンアン11名、パンダノン30名、カオハガン9名であった。初日から患者総数62名であった。

伊藤氏は島のスタッフと一緒にセブ島の病院に診察に行き、ヒザの骨には異常は無かったものの、軟骨部や筋を痛めており、ヒザから足の甲まで腫れ、安静にしなければならない状態であった。島民に作って頂いた松葉杖を頼りに何とかトイレには行ける状態。DH 1名と島の保健師でもあるヴァージニアは診療の合間に家庭訪問に行く。

今回初めての試みで、3歳～5歳の幼児のいる家庭に訪問し、具体的に母親のヒザで赤染めをして寝かせ磨きをしてもらい、母親指導を行った。ビサヤ語の言葉の壁はヴァージニアが通訳、指導を行った。ヴァージニアが愛娘ショハナちゃんを自らヒザに乗せてデモンストレーションをしてくれたお蔭で沢山の母親達が集まって来てくれて、3軒の家庭を訪問することができた。





### 11月21日（日曜日）

教会でミサがあり、いろんな島から沢山の島民達が集まっていた。この日はさすがにカオハガンの患者数が25名と多かった。その他、パガンアン11名、サンタロサ6名、パンダノン23名。患者総数65名。Voの佐々木千尋さんは慣れない仕事にもかかわらず、いつも笑顔で診療補助に携わってくれた。彼女がいてくれると診療所が明るくなり、彼女の声を聞くと疲れていても笑顔になれる。ありがとう。バランガイホールでの診療の流れもだいぶ慣れたが、機械のトラブルや電源のパワー不足で機械が止まる。そんな時はマイケルがすぐに機転をきかして修理してくれた。彼が居なかったらこんなにもスムーズに診療が進まなかったと思う。トッペルやアグスチーヌも今まで同様、診療補助を何も言わなくても的確にアシストしてくれる。JDMの今までの歴史を感じられる。



### 11月22日（月曜日）

9時からDr 沢田、Dr 栗原、DH森、DH垣内の4名は小学校で検診とドネーションを行った。ドネーションの内容は、エンピツ、画用紙、絵の具、歯ブラシ。今回、その贈呈式にカオハガンハウスに滞在している神奈川県出身の小倉香織さんという24歳の絵の先生も加わって下さった。彼女は約8ヶ月カオハガンに滞在していて、小学校の子供たちに絵を教えていた。彼女が子ども達に絵画を教えたことによって、今回の文化交流の絵は以前とは比べ物にならないくらい素晴らしい作品となった。以前の絵をご存知の方はこの絵を見たら大抵は驚くだろう。テーマは『風』。



残りのスタッフはホールで学校検診を受けて治療をしなければいけない子供たちが来るのを待ったが、ホールの前ではすでに島民達が早朝より並んでいるため、沢山の患者でごったがえした状態であった。この日の総患者数は87名と最高の数であった。島の種類も増えて、カオハガン15名、パンダノン8名、ヒルトガン5名、パガンアン6名、ガブルアン1名、カオハガン小学生52名。ヴァージニアとDH大西は昨日に引き続き家庭訪問に出る。午後から5件の家を回る。

午後2時からはDr 沢田、崎山氏、カオハガン村長の3名でラブラブ市の市長に表敬訪問に出た。PAZ-RADASA市長は女性市長で前回の市長の奥様で、今年就任されて初めてDr 沢田と会談した。JDMの活動に対する理解と薬品・機材などの税関に関する陳情に伺うのが目的であった。



### 11月23日 (火曜日)

9時より通常通り診療のかたわら、在庫確認をしながら片付けていく。午後3時から島民大運動会を開催予定なので、朝から森、佐々木、伊藤の3名は運動会準備に入る。今回は麻酔薬やアイオノジット、ガーゼなどが底をついた。次回は気を付けて持っていく必要がある。午前は約5名の患者数。



来年2月の入れ歯予約数は14名となった。

昼食後リクリエーション。船で沖へ出てシュノーケリング、マッサージ、買い物など、それぞれが自由に時間を楽しんだ。



島民大運動会では、パン食い競争、アメ食い競争、玉入れ、チーム対抗リレー、綱引き、と面白さ満載の運動会であった。準備担当の方々ご苦勞様でした。本来なら先頭に立って準備して下さるはずの伊藤氏が、ずっと椅子に座って見学している姿（ご本人が一番悔しい思いでしょう・・・）が痛々しかった。

#### 11月24日（水曜日）

成田出発組は早朝3時半起床4時出発、関空組は5時15分出発。今回、昼間は良い天気恵まれ、夜に雨が降るパターンが多かった。例年になく蚊の発生が多く感じられたし、そこらじゅう刺された。それぞれが思い出いっぱい帰路についた。『家に帰るまでがJDM』である。

## リーダー報告

11月19日～24日 歯科医師5名 衛生士3名 ボランティア2名 以上10名参加で行ってまいりました。JDMの活動でいつも感じていることですが、毎年新たな驚きと発見があります。

なにもなかった島にも少しずつ立派な家が建ち、外観が変わってきていること、あの小さな島に自転車が数台あったことなど、こんな変化のように口腔ケアについても考え方が少しずつ変化していったらなあと思います。

また、4月より日本から帰国したカオハガンハウスのマネージャー、ジュディスは日本語がわかるだけでなく考え方まで理解しているようで非常に安心でした。

今回よりここ数年安定して慣れていた教会を離れて、新設のバランガイホールでの診療でした。

トイレ、水道付きですが、小さな部屋に分かれているため、機材の配置と人の動線がかみ合わず、戸惑いました。これは今後の検討課題でしょう。

診療のほうも抜歯から充填へ傾向が変わって行き、また今回からの試みとして就学前の家庭に訪問し、一歩だけでも対処療法から進行抑制、予防、さらに食生活指導まで近づけたかなと思える一面もありました。恒例の運動会は、5種目最後の綱引きまでシャイな島民たちもエキサイトし、大人も子供も参加してくれて大いに盛り上がりました。

最後に、いつもながら全員のサポートに支えられ無事帰国できたことを感謝いたします。

そして、今回上陸直前に怪我をされた方がいましたが、全員協力して支えたこと、島民のサポートもあったこと、普段使うことのない海外旅行傷害保険の大切さなど実感しました。

一度みなさんも保険内容を再確認されてください。

ではまた、 上崎秀美

## 治療結果

	20日	21日	22日	23日	合計
抜 歯	86本	95本	67本	7本	251本
C R	16	26	22	3	67
セメント・シーラント	11	30	185	10	236本
サフロライド	0	0	3	0	3人
根治	0	0	1	0	1人
スケーリング	0	7人	9人	4人	20人
義歯関係	19床	4人	3	0	26人
義歯セット	5床	0	0	0	5床
その他(チェックのみ)	2人	6人	5人	0	13人
<b>患者数</b>	<b>50人</b>	<b>65人</b>	<b>87人</b>	<b>6人</b>	<b>208人</b>

島の名前	20日	21日	22日	23日	合 計
カオハガン	9	25	15	6	55
カオハガンスクール	0	0	52	0	52
パガンアン	11	11	6	0	28
ガブルアン	0	0	1	0	1
パンダノン	30	23	8	0	61
サンタロサ	0	6	0	0	6
ヒルトガン	0	0	5	0	5
<b>総患者数</b>	<b>50人</b>	<b>65人</b>	<b>87人</b>	<b>6人</b>	<b>208人</b>

今回のカオハガン小学校のDMF 歯率は29.9%であった。

総歯数の中のDMF 歯数が始めて30%を切った。

全体を検診されたDr 沢田の意見によると学校検診で明らかに予防の効果が出ていて、深刻なC4の第一大臼歯の数が減っているとコメントされていた。6年前に比べ小学生の治療の中心が抜歯ではなく、予防充填の数が上回っているのが嬉しい。